

## 卒業後3年次アンケート（平成29年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などから、改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業後・修了後3年次アンケートを実施し、その結果を公開しています。ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、お礼申し上げます。

### 【実施時期】

平成29年8月1日～平成29年9月15日

### 【実施方法】

連絡先住所が判明する平成26年度卒業生75名に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。卒業生の回答は17、回答率は22.7%で、昨年度（回答数15、回答率12.2%）よりやや向上した。

### 【結果の概評】

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」では、90%以上が「充分」または「それなり」に「満足している」と回答しており、「あまり満足していない」「満足できず、後悔している」という回答は0であった。この結果は昨年度と大きく変わらず、例年卒業時に行っているアンケートの傾向とも一致し、文学部の教育に対する満足度の高さが窺われる。

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では、「一般的な教養や知識」「外国語の能力」といった知識や技術に関する項目を選択した方が多い一方、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自学自習の姿勢」を選択した方も全体の6割前後に上り、本学部の教育の特長がよく表れている。この項目の選択率は昨年度よりも向上した。同じく昨年度と比べて選択率が増加した項目に「自己管理能力」「倫理観」があることは、近年の教育の傾向を反映しているかもしれない。一方、「専門的な知識と技術」「専門分野の研究能力」の選択率がやや低下している点には留意が必要である。

## 【自由記述欄】

Q.04 文学部での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

・自由度が高い分自己責任も問われ、特に卒業論文で取材先への段階を踏んだアポイント取り等、自己の力で目標を達成することが求められたことは、社会人になってから活きていると思います。

・教授の研究テーマに絞られず、自由に研究内容を決められたところ。

・研究室の先輩との距離が近く、親身になって相談いただけたことがよかったです。

・環境面（研究姿勢等）…学ぶ姿勢があれば、いくらでも学ぶことができる。その学問を行ううえで必要な素質や能力は厳しく鍛えてもらえる。その厳しさゆえに、その学問に対して敬意・情熱・愛・誇りを持つことができる。先人たちの知的伝統に対する真摯な態度を養うことができる。図書館の蔵書が非常に充実している（古代哲学分野）。／内容面（人文学のよさ）…ひとつの立場や解釈に固執することなく（自分の立場へのこだわりは必要だと思うが）、多角的に世界を理解することができるようになる。原典に立ち返ることによって、共時的ではなく、通時的な人間の普遍性にもアクセスできる。

・それぞれの自主性に委ねられており、自分のペースで学習できたこと。また図書館の環境が整っていたため、専門分野以外でも気になったことがあればいつでも調べることができたところも良かったと思います。

・答えがなく、全ての考えを包み込んでくれたところ。流行や社会の風潮にとらわれずアカデミックなところ。学部で学んだ意味とは何だったのか悩むこともありますが、仕事には役に立たなくても人生が豊かになっていると思います。専攻の文学が好きだったので、専攻のみならず勉強会をしたり、色々自由に議論したり、授業や図書館での勉強の合間に話し合ったことが単純にいい思い出です。

・4年間を通じて、本の読み方を教わったこと（精読を重んじる講義スタイル）。かけがえない学友と先生に出会えたこと。さまざまな分野の知識にアクセスできたこと（図書館が充実していた）。

・教員に管理されず、自分のやりたい勉学ができること。文学研究科図書室の資料が豊富で、自由に利用できること。

・普段は入れない史跡の見学や、本物の古文書を使用した授業など、絶対に京都大学でしかできないことを経験できたことがよかったです。また、社会や仕事で求められるのは効率化・改善・スピードといった視点ばかりですが、それらと対極にある過ごし方（図書館に何時間もこもってたくさんの文書や史料と向き合い、自分なりの答えを見出していくような過ごし方）をした時間は、大変貴重なものだったと今になって思います。"

・専修や研究室がたくさんあり、学習の機会が幅広く開かれた中で、自分の興味を持ったものに対して自由に勉強することができたところ。

Q.05 文学部での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感

じたか、自由に答えてください。

- ・自由な反面、もう少し体系的なカリキュラムがあっても良いかと思いました。
- ・放任主義すぎるところ。
- ・パワーポイントを使った資料作成や Excel の操作などの必須スキルを、課題などを通して学ぶ機会が少ないため身に付かないことが、改善すべき点の一つだと思います。
- ・学生が自分の専門についてももう少し関心や誇りを持つべきだと思う。"
- ・専門科目の勉強がほとんど3・4回生時だけで、就活もあり足りなかった。1回生から自分の専門について考える機会をもち勉強を始めたかった。
- ・司書の資格をとろうとしたが、窓口の人が履修の相談に全くのってくれなかった。
- ・教員が提出したレポートに段階評価だけつけ、はっきりとしたフィードバックがもらえなかった。上司にみてもらい訂正し、自分の形を作っていくという、社会では当然のステップがなかった(先生方はお忙しいので難しいと思いますが)。
- ・ラテン語の授業がとっつきにくかった。もう少し真面目に勉強しておけばよかったと思います。
- ・文学部に限られた問題ではないと思いますが、海外からの留学生や、他学部・他専修の学生など、学内のさまざまな方ともっと交流する機会を持てるようにした方がよいと思います。学部の授業を受けていると、どうしても出席者が同じ顔ぶればかりになってしまいがちで、少し物足りなく感じました。
- ・ゼミのようなものが無く、専門分野に入ってからの方が孤独な勉強になってしまったこと。研究室内での交流がほとんどなかった点。

アンケート名 2017年度 卒業後・修了後3年次アンケート

部局 文学部

対象者数 75

回答者数 17

回答率 22.7

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 哲学基礎文化学系(思想文化学専攻) (3票/17.6%)
- B: 東洋文化学系(文献文化学専攻・東洋系) (3票/17.6%)
- C: 西洋文化学系(文献文化学専攻・西洋系) (2票/11.8%)
- D: 歴史基礎文化学系(歴史文化学専攻) (5票/29.4%)
- E: 行動・環境文化学系(行動文化学専攻) (4票/23.5%)
- F: 基礎現代文化学系(現代文化学専攻) (0票/0%)
- G: 無回答 (0票/0%)



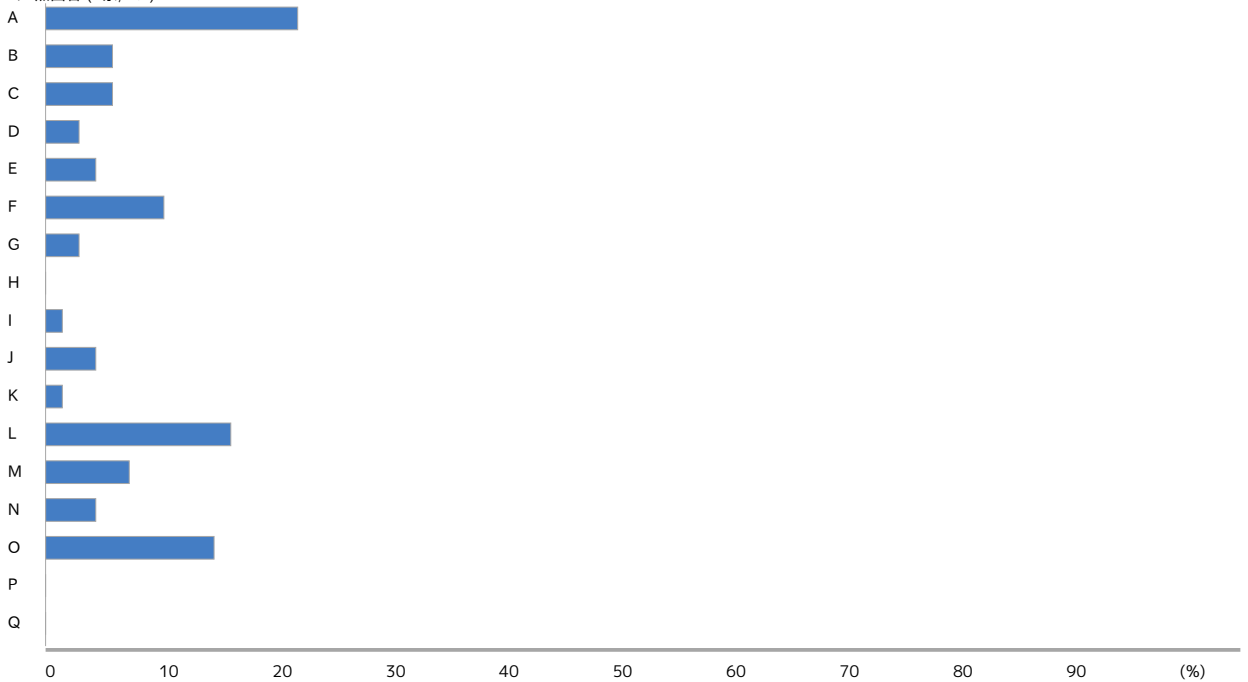
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労) (14票/82.4%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (2票/11.8%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (1票/5.9%)
- D: 社会人(非就労) (0票/0%)
- E: 学生・院生(京都大学) (0票/0%)
- F: 学生・院生(他の大学) (0票/0%)
- G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)
- H: その他 (0票/0%)
- I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください(複数選択可)。

- A: 一般的な教養や知識 (15票/21.1%)
- B: 社会的な常識 (4票/5.6%)
- C: 専門的な知識と技術 (4票/5.6%)
- D: 専門分野の研究能力 (2票/2.8%)
- E: 国際感覚や国際性 (3票/4.2%)
- F: 外国語の能力 (7票/9.9%)
- G: 企画力や創造的思考力 (2票/2.8%)
- H: 実行力 (0票/0%)
- I: 協調性やチームワーク (1票/1.4%)
- J: コミュニケーション能力 (3票/4.2%)
- K: リーダーシップ (1票/1.4%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (11票/15.5%)
- M: 自己管理能力 (5票/7%)
- N: 倫理観 (3票/4.2%)
- O: 自学自習の姿勢 (10票/14.1%)
- P: その他 (0票/0%)
- Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(9票/52.9%)
- B: それなりに満足している。(7票/41.2%)
- C: どちらとも言えない。(1票/5.9%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)



## 修了後3年次アンケート（平成29年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などから、改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業後・修了後3年次アンケートを実施し、その結果を公開しています。ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、お礼申し上げます。

### 【実施時期】

平成29年8月1日～平成29年9月15日

### 【実施方法】

連絡先住所が判明する平成26年度修了生（修士33名、博士9名）に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。修士課程修了生の回答は15、回答率は45.5%で、昨年度より大幅に向上した。博士課程修了生からの回答は1、回答率は11.1%で、昨年度の0よりは改善されたものの、向上のための工夫はなお必要である。なお博士課程修了生からの回答結果については、回答数が少ないため図示せず、以下の概評に記述する。

### 【結果の概評】

#### 〈修士課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では、90%弱が「充分」または「それなり」に「満足している」と回答しており、「あまり満足していない」「満足できず、後悔している」という回答は皆無で、文学研究科の教育に対する満足度の高さが窺われる。

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」を選択した方が最多で全体の3分の2に上り、本研究科の教育の特長がよく表れている。また、全体の6割の方が「専門的な知識と技術」を、4割の方が「専門分野の研究能力」を選択している点は、学部教育との違いが顕著に表れているといえるだろう。

#### 〈博士課程〉

1名の回答者は、Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では「それなりに満足している」と回答し、Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では「専門的な知識と技術」「専門分野の研究能力」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」の項目を選択している。概ね修士課程修了生の回答傾向と一致しているといえよう。

【自由記述欄】

Q.04 文学研究科での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

〈修士課程〉

- ・自学自習を基本とする点。
- ・修士の時に身につけた自学自習の姿勢は、博士段階の研究にとって役に立ちました。
- ・自己責任のもと自由に研究できること。
- ・自分のペースで、自分の納得のいくまでじっくり研究に向き合う環境が整っていた所。
- ・自由度が高く、幅広い興味関心から研究テーマを設定することができる。教員が優秀かつ親切で、尊敬できた。
- ・専攻しているもの以外にも自由に、気の向くまま様々な知識を得ることができたこと。
- ・ものごとを深く探求する姿勢が身についたと思う。語学力や一般的な常識も得られたと思う。
- ・哲学でも多種多様な哲学を勉強できてよかった。
- ・様々な研究分野の方々と共に勉強させていただき、基本的な資料の扱いから専門的な知識、多角的な視点を身に付けることができたことが良かったと感じます。現在の仕事の中では、専門的なところまで求められることは少ないのですが、時々、必要が出てきたときに、文学研究科での学びが生きてくることがあります。
- ・先生達のプロさ、真面目が記憶の中にずっと残っています。学校の国際化をも感じ、世界各地の有名教授との連結研究、多様なセミナーに感心しました。
- ・本学の研究科は、流行を追うような研究ではなく、地に足のついた知の探求をできる所が良かった。一見遠回りでも、結局はそれが、世界を相手に様々な場面で”闘って”いくには早道となる。
- ・文学部図書館の蔵書は、豊富で利用しやすいため、ありがたいです。

〈博士課程〉

- ・教員の専門やゼミ制度に縛られることなく、自分の興味に沿って研究を進められた点。

Q.05 文学研究科での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

〈修士課程〉

- ・文系ですから、研究はほとんど個人戦です。協調性とチームワークの能力を鍛える機会が少なかったと感じます。
- ・研究者である教授とコミュニケーションが取りにくいこと。研究室の問題は院生で自己解決すべきという風潮があり、しかるべき労働対価が支払われないまま雑務を行うこともあった。また他の院生や学部生との馴れ合いの結果、生じた問題もあると思うので、普段から教授とのやりとりがスムーズにできる環境であって欲しかった。

- ・いまだに通年授業が多すぎる。すべて半年単位でよい。
- ・どこまで突き詰めてやるかは本人次第なので、限界を低く設定する甘えが生じがち。また、惰性で大学院に残る学生への指導も必要。
- ・学部教育に関わる話だが、当然、研究科では専門分野に特化する。その前段階で広く強力な教養がないと、研究以外のビジネスの場に出たとき、出ざるを得ないとき、闘えない。極端な話、文学研究科に進むとはいえ、実学を含めた教養をもう少し、学部で叩きこんだ方がよい。その上で研究科に進んだ後は、思う存分専門分野に取り組んだとて遅くはない。すなわち、学部教育をもう少し厳しくする、というのは改善点としてあり得る。

〈博士課程〉

- ・開講される授業の幅の狭さ（過度に専門的、分野の偏りなど）。



アンケート名 2017年度\_修士\_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 33

回答者数 15

回答率 45.5

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

A: 文献文化学専攻・東洋系 (3票/20%)

B: 文献文化学専攻・西洋系 (3票/20%)

C: 思想文化学専攻 (1票/6.7%)

D: 歴史文化学専攻 (4票/26.7%)

E: 行動文化学専攻 (3票/20%)

F: 現代文化学専攻 (1票/6.7%)

G: 無回答 (0票/0%)



(Q.02) あなたの現況について教えてください。

A: 社会人(一般企業等で就労) (5票/33.3%)

B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (1票/6.7%)

C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (5票/33.3%)

D: 社会人(非就労) (0票/0%)

E: 学生・院生(京都大学) (3票/20%)

F: 学生・院生(他の大学) (1票/6.7%)

G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)

H: その他 (0票/0%)

I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学研究科での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質を教えてください。

A: 一般的な教養や知識 (9票/13%)

B: 社会的な常識 (4票/5.8%)

C: 専門的な知識と技術 (9票/13%)

D: 専門分野の研究能力 (6票/8.7%)

E: 国際感覚や国際性 (2票/2.9%)

F: 外国語の能力 (5票/7.2%)

G: 企画力や創造的思考力 (4票/5.8%)

H: 実行力 (3票/4.3%)

I: 協調性やチームワーク (2票/2.9%)

J: コミュニケーション能力 (1票/1.4%)

K: リーダーシップ (0票/0%)

L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (10票/14.5%)

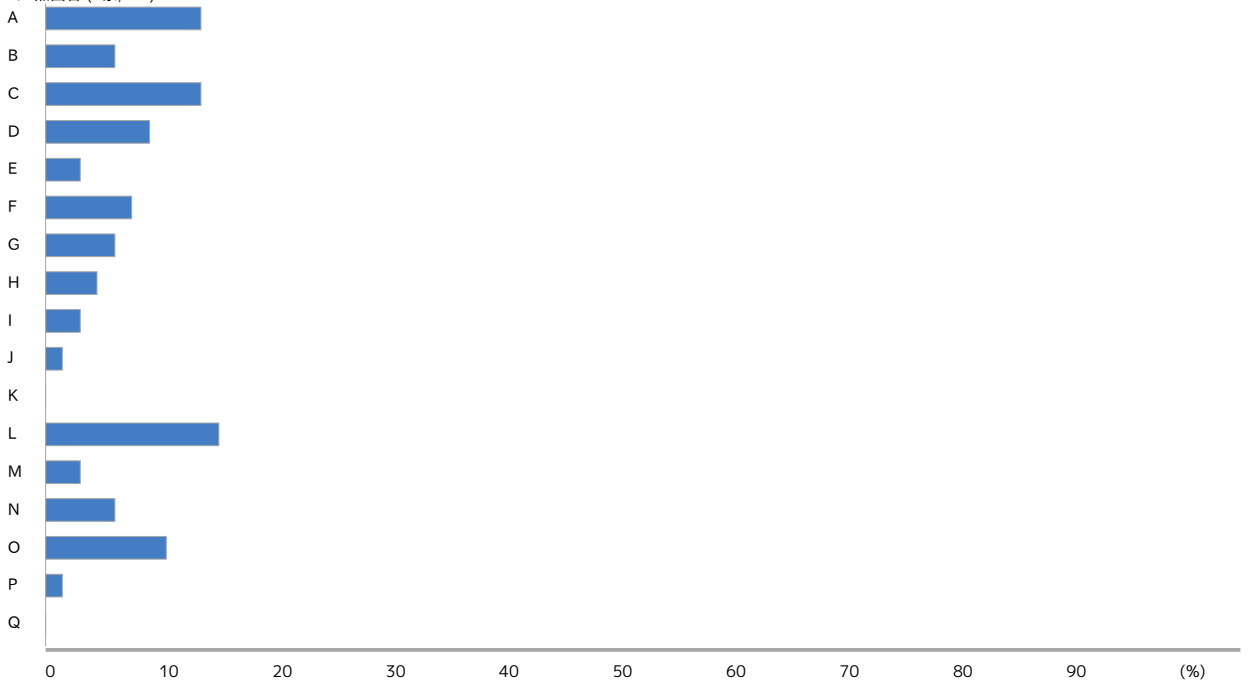
M: 自己管理能力 (2票/2.9%)

N: 倫理観 (4票/5.8%)

O: 自学自習の姿勢 (7票/10.1%)

P: その他 (1票/1.4%)

Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学研究科での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

(Q.05) 文学研究科での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(8票/53.3%)
- B: それなりに満足している。(5票/33.3%)
- C: どちらとも言えない。(2票/13.3%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)

